



# 基本計画

# 健やか

理念ごとの計画③ 子どもからお年寄りまで、のびのびと心身ともに健康に暮らせるまち



豊明小学校 6年  
松澤 加奈さん

「ほかの国の人たちが自由に入れて、一緒に遊んだり笑ったりできる、豊かで明るい笑顔いっぱいの豊明市」というイメージで描きました。

めざすまちの姿



## 11. 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている

### ■ 現状と課題

生活環境の改善や医学の進歩によって結核などの感染症が激減し、日本は世界でも有数の長寿国となりました。一方で、食生活の変化や生活環境の自動化を背景に心臓病や糖尿病、高血圧などの生活習慣病の増加により医療費は増大し、急速に進む高齢化社会において大きな社会問題になっています。

本市における3大死亡原因は、がん、心疾患、脳血管疾患です。また、メタボリックシンドローム該当者及び予備軍は29.6%（平成23年度）から29.8%（令和元年度）と改善されていない状況です。本市では、市民が適切な生活習慣、食習慣の改善とともに運動習慣を身につけることができるように「第2次とよあけ健康21計画（平成26－35年度）」に基づき、楽しみながら健康の維持につながるような運動の普及推進に努めていきます。

また、体育施設の老朽化や、ライフスタイルの多様化に伴うスポーツ離れ、スポーツ指導者の高齢化など、市民が運動できる環境についての課題があります。誰もが運動に親しむことができるよう、ハード面だけでなくきっかけ作りや指導者の育成などの環境を整える必要があります。

### 市が取り組むこと

【大施策】 **誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる**

【中施策】

誰もが運動を楽しめる機会や場をつくる

市民の体調や基礎体力を整えるための活動を支援する

一緒に運動を楽しむ仲間を増やし、リーダーを育成する

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連

## まちづくり指標

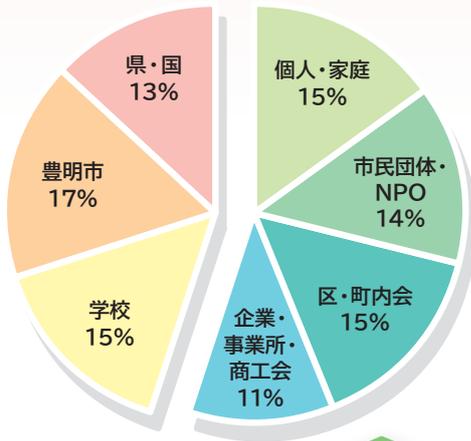
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	スポーツをするために必要な情報が得られている市民の割合	30.4%	39.8%	44.8	58.7
2	スポーツを教えてくれる人がいると思う市民の割合	24.6%	31.3%	35.6	46.4
3	スポーツを楽しむことができる市民の割合	37.1%	36.8%	47.7	58.9
4	医療機関にかかっていない市民の割合	15.2%	14.5%	21.8	29.2

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

## 役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



## 市民ができること

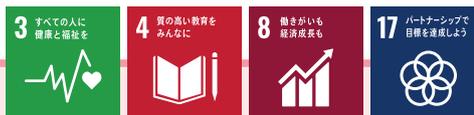
- ご近所や友達同士でスポーツする機会に誘い合うことができます。
- 地区対抗のスポーツ大会やイベント、地域での運動会などを企画し、運営することができます。
- 歩いたり、自転車の利用を増やすことができます。
- 自分の得意なスポーツを教えて、スポーツの輪を広げることができます。
- 地域に根づいたスポーツを考え、実践することができます。
- 企業や団体などと協力、連携を図り、スポーツ活動の場や健康増進の機会を増やすことができます。



スポーツレクリエーションフェスティバル

携

めざすまちの姿



## 12. 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢をもつことができる

### ■現状と課題

本市の平均寿命は、男性80.6歳、女性86.0歳（平成23年調査）から男性81.7歳、女性87.2歳（平成27年調査）と延伸しています。健康上の問題がない状態で日常生活を送ることができると期待される「健康寿命」との差は10歳程度となっており、健康的な習慣の定着により、この期間をいかに短くするかが重要です。高齢者が生涯現役で働いたり、地域活動に関わったりしながら活躍することで、精神的にも身体的にも元気で健康に過ごすことができます。高齢者の元気な姿は、若い世代にとっての希望にもつながります。

定年延長、継続雇用などにより高齢の勤労者が増加していますが、その他、高齢者の活躍する場としては、区や町内会、老人クラブ、シルバー人材センター、ボランティア団体などがあります。例えば、放課後子ども教室では、高齢者がボランティアとして子どもたちの成長を見守っています。また、本市では「とよあけ市民大学ひまわり」を支援し、市民が学び合う場の1つとなっています。このように、高齢者の社会参加への意欲を活かし、世代を超えたつながりを持つことができる環境を整えることが必要です。

### 市が取り組むこと

【大施策】 **元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる**

【中施策】

高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する

高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる

若い世代が元気な高齢者と身近に交流し、良いところを知る機会や場をつくる

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連

## まちづくり指標

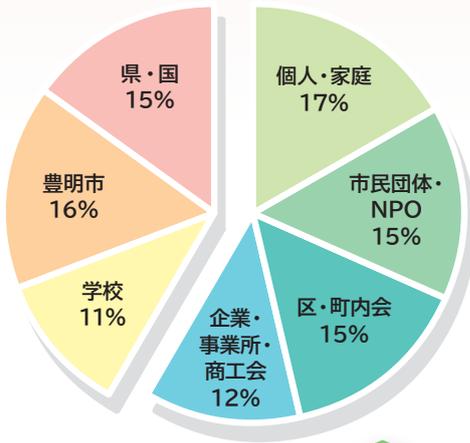
「めぞすまの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めぞそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	近所の高齢者がいきいきしていると思っている市民の割合	54.9%	63.5%	63.7%	71.4%
2	人生が楽しいと感じている高齢者の割合(65歳以上)	75.2%	74.6%	80.6%	85.7%
3	老後の生き方に夢があると思っている若者の割合(50代以下)	18.4%	23.1%	29.1%	40.3%

※毎年、現状値を測定し、めぞすまの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

## 役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めぞすまの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



## 市民ができること

- 地域の中にじいちゃん、ばあちゃんが集える場所をつくることができます。
- 自分の楽しみを見つけてがんばっているじいちゃん、ばあちゃんを、家族は見守り応援することができます。
- 町内の行事を考えると、多世代が参加できる内容を盛り込むことができます。
- じいちゃん、ばあちゃんは、自分の得意なことを若者に教えることができます。

携

めざすまちの姿



## 13. 教育や子どもに関する予算が確保され、子どもの教育環境がよい

### ■現状と課題

全国的に大きな課題となっている超高齢社会の到来による扶助費の増加は本市においても例外ではなく、教育や子どもに関する十分な予算の確保が年々難しくなっています。本市の教育に関わる費用は平成25年度決算で約21億9,300万円であったのが、令和元年度決算で約29億1,900万円と増加していますが、今後更に学校施設の老朽化が進み、維持管理や災害に対する備えのための費用は増大します。

子どもの教育環境を充実させていくために、ソフト面では、教師が各種書類作成や調査など、直接的な教育とは関係のない事務にとられることなく教育実践に腰を据えて取り組むことができるよう、教育現場と行政の役割分担が必要です。また、ハード面では、公共施設に占める学校施設の割合について全国平均が40%から50%であるのに対し本市は58.8%と高い状況の中、公共施設適正配置計画等に基づき、計画的な施設マネジメントを推進する必要があります。このことは、学校施設の維持・更新においても財政面で有利となり、真に必要な教育環境を子どもたちに提供する上でも重要な課題です。

### 市が取り組むこと

【大施策】 **教育や子どもに関する予算を確保し、教育環境を整える**

【中施策】

学校の施設・設備を充実する

学校以外の教育施設・設備を充実する

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連

## まちづくり指標

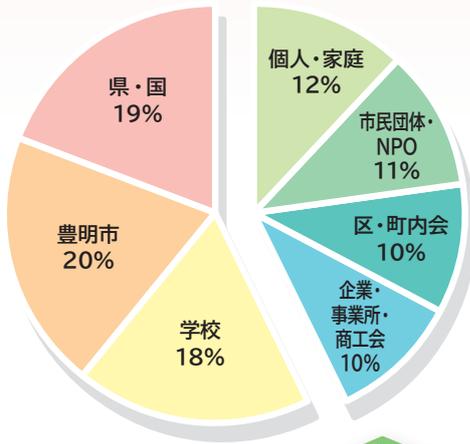
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	子どもにとって必要な教育環境が整っていると思う市民の割合	44.3%	55.3%	55.3%	64.8%
2	子どもにとって必要なところに予算配分がされていると思う教育関係者の割合	13.1%	36.2%	25.4%	38.7%
3	歳出の内、教育や子どものための予算の割合	19.5%	24.3%	21%	23.2%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

## 役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



## 市民ができること

- 子どもに教育予算がどう使われているかに興味を持って、知ることができます。
- 進んでアンケートに回答する等、市や学校に積極的に意見や要望を伝えることができます。
- 地域やNPO、企業など色々な主体者と連携して、得意技を伝える機会の提供や子どもが参加できるサークルを作ることができます。

携

めざすまちの姿



## 14. 子どもが、ずっと育ってきた豊明を大好きでいる

### ■現状と課題

進学や就職を機に生まれ育った地域を離れる若者がたくさんみられ、その多くは東京一極集中と言われる地方の人口減少の一因となっています。大都市圏に属する本市においては、その傾向は顕著ではないものの、高齢化率の上昇をみると憂慮せずにはいられません。

以前のように、地域ぐるみで育てられた子どもが地域を愛し、地域に居場所や役割があり、地域で活躍していたことを思えば、やはり地域との関わりをもって地域に育てられることが重要ですが、本市では地域活動の衰退と相まって、地域活動とともに成長する若者の姿が少なくなっています。地域の再生には若者の存在が必要であり、地域に若者を存在させるためには地域ぐるみで子どもを育てられる環境が必要です。地域・家庭・学校が連携し、地域を愛し、活躍できる場をつくっていくことが求められています。

### 市が取り組むこと

【大施策】 子どもがずっと育ってきたとよあけを大好きになる環境をつくる

【中施策】

子ども同士や大人との出会いの機会や場を増やす

子どもの頃から好きな場所や思い出に残る機会を増やす

家族や地域の人がとよあけを好きになる風土を醸成する

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連

## まちづくり指標

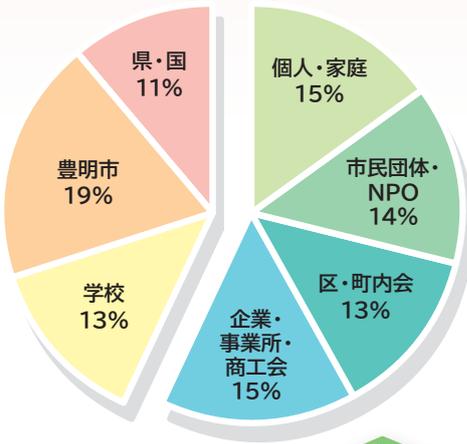
「めぞすまの姿」の達成状況を評価するための指標です。

	基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めぞそう値	
			5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1 自然が大切にされていると思っている市民の割合	64.8%	71.3%	70.7%	76.9%
2 豊明を自慢できる市民の割合	39.3%	45.4%	49.3%	59.1%
3 ふるさと納税の件数	2件	1,383件	6,000件	3,000件
ふるさと納税の金額	12千円	24,340千円	60,000千円	43,000千円

※毎年、現状値を測定し、めぞすまの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

## 役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めぞすまの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



## 市民ができること

- 大人は豊明に愛情をもち、まちの良さを伝えることができます。
- 子どもが豊明の歴史や文化、自然などに触れる機会を設けることができます。
- 子どもの頃から色々な仲間とつながり、輪を広げることができます。



じゃがいも掘り(中部保育園)

携